きそよう防災の日がありました

10 月 30 日、「きそよう防災の日」を実施しました。毎年この時期に行っている防災学習で、今年も長野県危機管理防災課の皆様と防災ダックくんに来校いただき、小学部・中学部・高等部それぞれで防災について学びました。



まず、過去に長野県で発生した大雨や台風、土砂災害、火災、地震などの映像を視聴しました。土石流の映像を見た生徒からは「車が通るところなのに…。やばいね。」また、洪水の映像を見た生徒からは「この前、他の県でもあったよね。」といった感想が聞かれ、災害の恐ろしさを改めて実感している様子でした。

小学部と中学部では、災害から身を守るための行動について学びました。水害時には「カエルさんのポーズ」で靴ひもをしっかり結んで避難することを確認しました。その際、小学部の児童から「ぼくは長靴を履いていくよ」という発言がありました。これに対し、防災指導員の太田様から「洪水のときは長靴の中に水が入ると重くなって動きにくくなるため、ひもの付いた普通の靴で避難することが大切です」と説明があり、参加者からは「なるほど」と納得の声が上がりました。



中学部では、木曽地域のハザードマップも紹介されました。太田様からは、「おうちにハザードマップがあると思います。家の近くにどのような危険があるのか、ぜひ確認しておいてください。」とお話があり、身近な地域の防災について考える機会となりました。







高等部では、「災害クロスロード」というゲームに取り組みました。「避難所の食料係として、避難所に避難していない人へ食料を配るかどうか」といった災害時に実際に起こり得る難しい場面について考え、生徒と職員がそれぞれの考えを発表し合いました。お互いの意見を聞きながら、多様な考え方に触れる貴重な学びの時間となりました。

最後に太田様から、「日頃から災害に備えて準備をしておくこと」「災害時にはみんなで助け合うことが大切」とのお話をいただき、今年のきそよう防災の日を締めくくりました。

今回の学習を通して、災害への備えや避難時の行動について理解を深めるとともに、自分や周りの人の命を守るために何ができるかを考える機会となりました。



